

暴騰する木材価格と著しい品質低下の木材資源

先月号の服部新聞のトップ記事で取り上げた、アラスカ材（オール新材）入港の記事の続きを今月のトップ記事にします。本年度第一船のアラスカ材原木の内スプルス材原木は昨年度3,000m³が入荷しましたが本年は昨年対比30%減の2,000m³の入荷でした。商況は、即日完売でした。その2,000m³の内訳は所謂ハイソート（現地等級が一番上級材）の原木は、約150m³その下の中間材が約1,500m³一番下のグレードが約350m³位です。どのグレードも全て完売です。服部商店は今回その中から5本、40m³分けて頂きました。グレード的には中間材を21m³、一番下を19m³の仕入れになりました。

ところで原木の品質低下は我々木材業者の想像をもはるかに超えるスピードで進んでいます。その例を木材知識の乏しい方にも解りやすく説明させて頂きます。

- ① 物件は神さん棚（仕上り長さ70センチ・巾500ミリ・厚み25ミリ）

↓ （神さん棚は柾目が絶対条件）

- ② 巾が500ミリ以上の巾が取れる板が必要になります。

↓

- ③ 巾が500ミリ取れる原木が必要です。『少なくとも1メートル50センチの原木が必要』

↓

①と②の事は木材の事を知らない方も解りますね。③の事は少し理解しにくいと思いますので、事細かく説明します。

A-1 シラタ側で約50ミリ使えない所が有ります。（皮の一部とシラタは使えません）

A-2 芯側で約200ミリの使えない所が有ります。（現在入荷している原木は多くの芯節が出る）

欲しい寸法の巾500ミリに50ミリと200ミリをたしますと750ミリになります。柾目に挽くので750ミリX（掛ける）2=1,500ミリになります。

神さん棚を作るのに適材は下の写真の原木（7メートル直径127センチの元の2メートル）しか取れる材が有りません。（500ミリの巾の板を取れる原木は2,000m³全体の中でも5%も有りません）

下の写真は買い付けた長さ7メートル直径127センチのスプルス原木です。（NO108）



NO108の元（直径160センチ）



NO108の末（直径127センチ）



左記原木を二つにチェーンソーにて割る



二つに割った姿

勉強会

服部商店も勉強会を開いていますが、私自身も建築士主催の勉強会に参加しています。参加メンバーは、建築士・工務店・デザイナー・材木業者等色んな仲間です。具体的な勉強会の中身は、本当の家『我々プロの集団で、我々が良い物と思う物を使って家を作るとしたら、一体本当は幾らで出来るのか』を調べようではないか。と言う事が趣旨です。この考えには、参加メンバーの共通した哲学が『住宅に用いられる全ての部材に命を吹き込んで使う』有ります。

以上の様な書き方をすると、眉唾者ではないか、良い事ばかり言って、本当は下請けいじめをして、安い家を建てて、安く売ろうと考えているのではと勘ぐられるかも知れませんが、決してそう言う考えではございません。

我々が考えている命を吹き込むとは、現場で仕事をしている良い大工さん、左官屋さん等の、所謂技術者が、全く育っていない。このままの状況が続けば、良い仕事を御願ひするお施主様つまりエンドユーザーさんが、良い住宅を欲しくても、買えなくなって来るのが、目に見えているからです。こう言う考えから行動を起こそうと考えました。

ところで技術者の話しをしたのですが、例に出したのは大工さんの日当の事でした。大体良い大工さんの日当は一日幾らが妥当な金額かを話しました。その結果は大体25,000円が妥当な相場ではないかと言う答えが出ました。(25,000円/日当で大体年収750万位になりますが、刃物代・機械代・自分の車の償却を考えれば、決して高くない数字だなと四人の話で合意に達しました。)

以上の様な考えで、良い物を提供してくれる資材屋さん、良い仕事をして頂ける大工さん、左官屋さん等の協力を得て、本当に消費者の皆様が必要としている良い住宅が、幾らの値段で出来るのかをはっきりさせて行きたいと考えています。

住宅産業は本当にクレーム産業か？

建築士さんと住宅全般に対してお話をする機会が有りました。その時の建築士さんの話を少しお披露目申し上げます。私は建築士さんに以下の質問をしました。

Q-1、何故無垢の木材を使わなくなったのですか？

Q-2、クロスの張りムラ・壁の少しの塗りムラもクレームになるのですか？

Q-3、日本人は本当に良い家を建てているのですか？

建築士さんの答えは以下のお答えでした

- A-1、お施主さんによっては、やはり予算の事で無垢を使いたくても使えない人がいる、その場合無垢は使いません。しかし上記の様な場合は、まだ対応がしやすいが、しかし対応が非常にしにくいお施主様が現実に存在しています。それは、今の情報化社会の弊害か、知らないが、間違った情報で凝り固まったお施主様はいます。その時は、無垢の木材が良いとは解っていても、幾ら説明しても無理と、少し話しをすれば解るので、無垢は使いません。
- A-2、壁だけでなくクロスの張りムラは、どこの現場でも少しは発生します。その時に場所が良く目に付くか付かないかで判断します。気にならなければ、一応 OK です。
- A-3、日本人は決して悪い家は作ってはいないが、しかし本当に消費者から、欲しがられる家は作っていない。家と言う物は住む人が歳をとっていつて住む人の入れ替わりがある。そう言う発想で、現実に家の設計はしていない。これからの家作りは、長い年月、住める様な本当の日本人に有った設計をするべきだ。

私は建築士さんとの話で住宅産業に何が足りないのかとお聞きしました。建築士さんは公平なアンパイヤーがいないう事だと仰っていました。それが住宅産業はクレーム産業と言う誤解を与えているのではと感じました。私は、住宅産業は決してクレーム産業ではなく、これからの高齢化社会で最も多くの人を雇用できる産業ではないかとも思いました。



サロンとして使ってください



左の写真は服部商店の2階に完成した無垢と漆喰の壁で出来た部屋です。是非、無垢の感触を味わってください。

この部屋を作るとき、ショールームにしようと考えましたが、段々部屋が出来上がって来ると、ただのショールームにするのは勿体無いと思う様になりました。

その理由は大工さん、左官屋さん、多くの工事業者が集まってこの部屋の改造をしたのですが、出来上がって肌で触れると、何とも言えない感触を実感しました。その感触とは、口では大変表現しにくいものです。

それは世間でよく使っている『癒し』かも知れません。建築士さん・工務店さんの仕事をしている方も我々木材を扱っている者も、仕事上のストレスは、発生します。この部屋に皆で集まって、欲しい車の話しとか、趣味の話しとか色々な、世間話をしましょう。建築に関係する仲間が言う集うサロンにしたいと考えております。

ところで服部商店はこの部屋で温度変化の数値データを取ります。そのデータ取りの作業は夜7時から冷房を夜中12時まで入れ、その後温度変化がどうなるかを測定する事です。(CO2削減には省エネルギーがベストの選択)私は無垢の木を使うことが本当に環境問題に良いと思います。しかし一般の方は無垢の木材を使うと値段が高くなると思われていますが、無垢の木材を使えば、どれだけ化石燃料を節約出来るのかを、皆様に数値データにてお見せしたいと思っています。

インフレなのに一部デフレになっている。

本年に入って住宅着工件数が、昨年度比較して大幅に減っています。特に5月のゴールデンウィーク明けから、大手ハウスメーカーも東京圏を除いたら、大苦戦をしていると聞いております。そう言う状況で木材の需給バランスは一部の物で供給過剰に陥っています。港の保税倉庫に山の様に積まれ、入りきらない在庫は屋外でブルーシートに包まれた状態で保管されています。もはや品傷みは避けられません。こう言う状況に陥っているのが、管柱に使われるホワイトウッドと構造用合板です。

昨年は一年を通して合板を始め全ての資材が高騰しました。そしてまずまずの売れ行きでした。しかし今年のゴールデンウィーク以降、少子化の影響か、それとも定率減税の撤廃の影響か、東京圏を除き大幅に、着工件数が減っています。しかし去年の資材不足で困ったのか、それとも儲け損なったのか、資材を扱う業者全員が本年も昨年同様、住宅は建つと言う思惑から、大量発注をかけました。しかしここへ来て住宅の売れ行きが減速しているので、木材の一部製品(ホワイトウッド・合板)は大変売れ行きが悪くなっています。そして手持ち在庫のコストが非常に高いにも関わらず、損しても売っていかねばならない状況に陥っています。その理由はホワイトウッドを例に出せば、人工乾燥していてもホワイトウッドが持つ特性が日本の気候風土に合わず、長い間保管しようと思っても、【こう言う材質の物を管柱に使う事は間違っていますよね】腐ってしまうので出来ないのです。10~15年位昔なら、少し損して安く資材を出しても直ぐ需要が戻ってきて、損を取り戻せる事は、可能でした。しかし今は違います。安くしても需要が出て来ないので。又業界全体が、大きな損が出来ないギリギリの態勢になっているのですと私の木材業界の先輩が仰っていました。

次の事も私の先輩は教えてくれました。現実に現地価格(アメリカ・ヨーロッパ)は絶対に日本の景気が悪から、次の契約価格を下げはしない。何故なら、日本が価格決定権を持つ時代は既に終わっている。日本向けが全体の供給の50%を遥かに下回る量しか買わないのだから。

そこで私が再度質問『来年はどうなりますか?』をしました。答えは、来年は大変困ると思う。何故なら、本年は、在庫過多の為、先行発注は絶対にしないし出来ない、本年の追加発注無しでも今年の在庫で仕事はこなせる。しかし大量に出回るホワイトウッド・合板は、有る程度は、発注しないとたちまち困る事にもなりかねないので、商社の連中も先物を扱ってくれる業者の材しか手当てしないので、来年は昨年以上にパニックになりかねないと言われました。

国産材回帰が着実に進めば、皆が損しない、売れなければ、立ち木を切らなくて良い。売れる数量を伐採出来るのが、国産材が有利な点です。それが森林の為、消費者の全体、国民全体の幸福に繋がるのと思います。

服部商店第二回勉強会

服部商店第二回勉強会を7月21日の土曜日に開催しました。一部、二部と分けて行いました。一部は米材針葉樹の代表的樹種のスプルース原木の製材を皆様に見ていただきました。二部は環境塗料パーフェクトコートをより多くのユーザーに知っていただく為の催しです。参加人数は12社19名でした。木工所の社長、工務店、建築士、デザイナー、木材業者等色々な住宅に携わる方々でした。

まず**第一部のスプルース原木の製材**ですが、アメリカ・アラスカ州ハイダバーグ産のスプルース（長さ5メートル・直径127センチ）の大径原木の製材を見ていただきました。詳細を知りたい方はDVD（ウインドウズ・メディアフォーマット）にしていますので、用意していますので、別紙でお答え下さい。

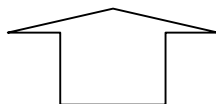


スプルース原木の中身を皆様に見ていただきました。

第二部は環境塗料パーフェクトコートの説明等です。パーフェクトコートの情報は服部新聞で何回も取り上げてきましたので細かい説明は省きます。詳細を知りたい方はDVD（ウインドウズ・メディアフォーマット）を用意していますのでアンケートにてお送り下さい。



パーフェクトコートを木材に塗布しています。（凄い耐水性を誇っています）



FAX番号072-422-8577

**第二回服部商店勉強会の詳しい事をDVD（ウインドウズメディアフォーマット）にしてい
ます**

アンケート1、 第一部スプルーエ原木の製材の勉強会DVDが見たい。

はい

いいえ

アンケート2、 第二部のパーフェクトコートの勉強会のDVDが見たい。

はい

いいえ

御社名	
ご担当者名	
電話番号	
FAX番号	

株式会社 服部商店
大阪府岸和田市木材町16-1
TEL 072-438-0173
FAX 072-422-8577
担当 服部雅章